



- ①発信する ②追究する ③粘り強く ④つながる ⑤思いや願いを実現しようとする ⑥課題解決する

## 振り返りと対話

副校長 坂本 陽子

ラグビーワールドカップ2023がフランス各地で開催されており、日本もプールDというグループで1勝1敗(2023.9.25現在)という結果で邁進中です。前回の2019年日本大会では、日本代表は史上初の決勝トーナメント進出を自力で決めました。今大会も、遠いフランスの地に向け、熱い応援の気持ちを送りたいと思います。

さて、学校だより6月号では「育むために必要なこと」という内容で巻頭言を書かせていただき、人やチームを育てるときには、①教えすぎないこと ②コミュニケーションをとること③振り返りをするこの3つの視点でお伝えさせていただきました。

初音が丘小学校では、「生き生きと思いを表現し、変容を自覚する子ども」というテーマで授業づくりをしています。「生き生き」は、活気があふれていて勢いのよい様子と考え、解決する問題に向かいゴールを目指し、目を輝かせて学びを進める姿。「思いを表現」は、生き生きと活動に取り組む中で、子どもは様々な発見、気づきを得る。一人ひとりの発見はやがて言葉、文章、絵等の表現として形を成していくことで、安心感をもった表現につながっていくと考えています。「変容を自覚する」は、「振り返り」を大切にしていくことです。子どもは学び取ったことを言語化することで自らの学びをメタ認知すると考えています。1時間の授業の中で、学び取ったことをそのままにしていれば、無自覚のまま終わり、次につながる学びにつながりづらいということが考えられるため、めあてに対する振り返りを行っています。

実は、この「振り返り」、授業の中だけではなく、日常の場面でも行われています。例えば、お子さんに、「今日、学校でどんなことがあったの?」という話で、うまくいったこと、楽しかったことは、共に喜び、共感し、逆に悲しいことがあったり、うまくいかなかったことがあったりすると、その状況や気持ちを聞くことができるかと思います。いずれにしても、子どもの心に寄り添いコミュニケーションをとりながら、価値付け(～それでいいよ!)や方向付け(～していこうね)をしていくことで、子どもは安心して前に進んでいくことができると思います。

と言っても、子どもが育つためにはたくさんの方の協力がが必要です。それぞれのお立場で子どもの健全育成のために、お力を貸していただければと思います。

～すべては、子どもたちの笑顔のために～

